

中国の医療機器市場が急拡大している。英エスビコムが推計によると2014年の市場規模は187億ドル(約2兆2千億円)。約74億ドルだった09年から年率20%で成長している。医薬品や医療機器の開発など医療分野のアウトソーシング(外部委託)事業を手がけるEPSホールディングスのCEO、CEOの兼務に中国の医療機器市場の展望を聞いた。

# 中国医療機器市場が拡大



EPSホールディングス会長  
**巖 浩氏**

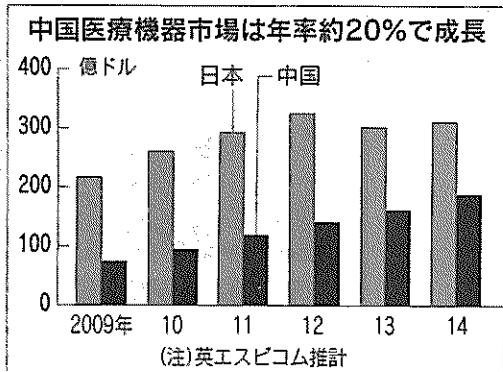
げん・こう 中国江蘇省生まれ。1979年天津大学に入学、81年に日本留学。山梨大工学部を経て、東大大学院在籍中の91年、EPSグループを創業。2015年1月、持ち株会社に移行して現職。52歳。

エキスパートの  
**視点**

## 「現地仕様」の開発重要

コンピューター断層撮影装置(CT)などの診断機器や様々な治療機器を導入するようになる。「地方でも新たなマーケットが生み出されている。中国政府は3億人が住む」とも含まれる

とされる農村地域の小都市の整備を進展政策の柱に掲げている。そこには「日本企業の強みは技術力だ。中国企業は医療分野ではまだこれからだ。日本勢は製造だけでなく健康診断や介護に



## 遠隔診断・介護にニーズ

する蓄積もある。ただ弱みもある。アプローチが漸進的な傾向があり、集中投下型の投資で一気に攻める欧米勢にブランド力では劣る。中国企業も少なくとも見た目は遜色ないものを製造できるようになった。地方都市の中小病院ではそれで十分とするところもある

「日本勢は何もかも目前でやろうとし過ぎる。現地企業とも柔軟に連携するなどで強みの技術力を最大限に発揮することを目指すべきだ」

欧米大手では上海などに研究開発拠点を設ける動きが顕著です。「これまでは先進国向け製品を中国に持ってきただけだが、今後は最初から中国向けに開発することが重要だ。患者が求めるものが違ったり、診断や治療の手順が違ったり、国により要求仕様は少しずつ違う。廉価版を作ればいいという話ではない。競争が激しくなるほど、細かいニーズを拾えるかが重要になる。そのためには現場の近くにいないと難しい」

「政府は自国産業を守るべく優遇する政策を進めようとしている」という見方もあります。「政府が自国産業を守ろうとしているのは確かだ。現在はまだ一部の富裕層向けに限られ、健康診断もこれからの分野を受けられない人が10億人はいらる。社会が豊かになれば一般向けの制度も整っていくだろう。高齢化の進展で、車いすなど介護分野の機器も切実に求められる」

「聞き手は新田裕一」

日経産業新聞  
2015/1/19(金)